

平成21年度大津市事務事業評価（二次評価）事業仕分け結果

班 別	第2班	時 間	9:50~10:30
事業番号	9	所管部課名	市民部 自治振興課
事業名	青少年健全育成事業		
事業仕分け結果	(1) 不要		
内 訳	(1) 不要	3名	
	(2) 国及び県実施	-	
	(3) 市実施 現行通り	-	
	(4) 市実施 内容・規模見直し	2名	
	(5) 市実施 民間委託	-	
	(6) 民営化（NPO、地域団体含む）	-	
<p>【事業仕分け判定に係る意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業目的・成果が不明確である。時代背景、ニーズが変わっていることから一度やめて抜本的に見直すべきである。 ・成果の達成手段として不明確であり、また事業内容が重複している。 ・事業内容の整理統合が必要である。 ・団体に対する補助であれば成果の数値化が必要である。 ・ニーズ調査を行った形跡がない。問題が増えているにも関わらず問題解決型の事業ではない。全体のコーディネートが必要。真剣に取り組むのであればこのような費用ではとてもできない。 			

事業仕分け発言要旨	
コーディネーター・評価者	事業説明者・補助者
	・事業概要説明（省略）
・今年度、大津っ子まつりが中止されたのはなぜか。	・5月17日に開催予定であったが雨天のため順延したが、さらに新型インフルエンザで中止した。補助金については、一部を除き、市へ返還した。
・青少年の犯罪や非行状況また意識調査などの具体的な調査は行っていないのか。	・関係機関が集まり最近の現状報告を受け問題認識を深めている。
・今、何が問題となっているのか。	・経済不況の関係から二つ問題や学校の不登校などの問題がある。
・説明の主旨は理解できるが、事業費の大半が青少年育成市民会議の補助金に充てられている。補助金が目的どおり有効に使用され、かつ成果を具体的に成果目標とし	-

<p>て掲げておく必要がある。</p>	
<p>・今年度、大津っ子まつりが中止されたことで青少年健全育成にどのような影響が出たか。</p>	<p>・中止したことによる青少年への直接的な影響はないと思うが、子どもたちが作成した宣伝ポスターの展示等ができなかったため、まつりに参加しようとしていた子ども達には非常に残念な結果となった。</p>
<p>・青少年育成大会（中学生広場）の参加が平成20年度の実績で320名とあるが、その内中学生の参加人数と市内の中学生の何割が参加したのか。</p>	<p>・市内の中学より発表者が各1名ずつ計20名と準備運営を行うために自主的に応募のあった中学生が30名、当日アトラクション（合唱）に参加の10名で計60名の中学生が参加した。</p>
<p>・参加した60名は市内の中学生の何割になるのか。</p>	<p>・数値がないため不明。実際は1%以下ではないか。</p>
<p>・青少年健全育成事業は複数所属にまたがっているが、それぞれの所属の役割分担は。</p>	<p>・次世代育成支援対策は福祉政策課、子育て総合支援は子育て総合支援センター、生涯学習フェスティバルは生涯学習課、広報啓発活動、街頭補導活動は少年センターを行っており、それぞれの所属が目的、主旨を持って行っている。</p>
<p>・重複した目的での事業はないという理解でよいか。</p>	<p>・完全に縦割りで行っているとは言い切れない。少年センターや生涯学習課で行っている事業とでは重複している部分はあると認識している。</p>
<p>（コーディネーター）</p> <p>・どう判断して欲しいのか、説明者側の意図をお願いする。</p>	<p>・青少年の健全育成に関わる事業については、教育委員会や福祉子ども部でも実施されており、次世代育成事業との関係も考慮して福祉子ども部等で行う方が効率的でより推進できるのではないかと考える。</p>
<p>・具体的な目標とその事業のつながりを明確にすべきである。地方青少年問題協議会法に基づいて事業をされているものであるが、他の自治体ではとくにやめている。地方青少年問題協議会法は義務ではなく任意である。現在のニーズを含め全体的な政策目標と事業の中身を考慮して所管を決定すべきである。</p>	<p>—</p>
<p>（コーディネーター）</p> <p>・青少年育成を考えるにはもっと考えるべきことがあり様々な議論が成り立つ。結論をどのように持って行くべきか、非常に難しい。</p>	<p>—</p>